

大学共同利用機関法人自然科学研究機構
経営協議会（第50回）議事要旨

1. 日 時 平成29年3月27日（金）10：45～12：30
2. 場 所 自然科学研究機構事務局会議室
3. 出席者 小森議長、高坂委員、斎藤委員、澤岡委員、庄山委員、高橋委員、高柳委員、豊島委員、中村委員、平野委員、結城委員、飯澤委員、金子委員、林委員、竹入委員、山本委員、井本委員、川合委員
(陪席者)
二宮監事、竹俣監事
(事務担当者)
植垣総務課長、野田企画連携課長、布野財務課長、大河施設企画室長、国立天文台 笹川事務部長、核融合科学研究所 山本管理部長、岡崎統合事務センター 棚木センター長及び三好財務部長 他
(研究成果発表者)
秋山 毅志 准教授（核融合科学研究所）
4. 配付資料
 - 1 経営協議会（第49回）議事要旨（案）
 - 2 平成29年度 大学共同利用機関法人自然科学研究機構 年度計画
 - 3 国立天文台の組織改編について
 - 4 平成29年度 分子科学研究所の組織改編について
 - 5-1 自然科学研究機構組織運営通則の一部改正について（案）
 - 5-2 大学共同利用機関法人自然科学研究機構組織運営通則 一部改正（案）新旧対照表
 - 6-1 会計規程及び会計実施規則の一部改正について（案）
 - 6-2 大学共同利用機関法人自然科学研究機構会計規程 一部改正（案）新旧対照表
 - 6-3 大学共同利用機関法人自然科学研究機構会計実施規則 一部改正（案）新旧対照表
 - 7-1 平成29年度の年間資金運用について（案）
 - 7-2 平成29年度年間運営費交付金資金運用（案）
 - 8 定期的確認結果（公示）
 - 9 第22回自然科学研究機構シンポジウムについて
 - 10 第23回自然科学研究機構シンポジウムについて
 - 11-1 I-URICフロンティアコロキウム2016について
 - 11-2 「NINSコロキウムのこれまでの総括と今後の展開」（3月3日 NINSコロキウムについての議論まとめ）
 - 12 機構長プレス懇談会（第10回）開催概要
 - 13 平成29年度の会議開催日程

5. 議事等

議事に先立ち、事務局から定足数及び配付資料の確認があった。

1) 前回議事要旨（案）について

前回経営協議会（第49回）議事要旨（案）（資料1）が了承された。

2) 平成29年度年度計画について

金子評議員から、資料2に基づき、平成29年度年度計画について説明があり、審議の結果、議論を踏まえた修正を行った上で決定することが了承された。

（主な意見等は以下のとおり）

- 大学の研究力の低下という心配の中で、大学共同利用機関には期待している。URAについても高い評価を得ていると聞いており、大学の研究力強化への寄与に期待している。
- 「次世代生命科学センター」では、どういう内容なのかわからないので、分かりやすい名称にしたらよいのではないか。名称は重要である。
- 現時点では仮称の段階だが、「生命創成探究センター」という名称を考えている。生きているとは何かということのスローガンに、今までは観察が主であったが、生命要素を組み立てて生命を作っている研究を目指していきたい。
- 共同研究者の推移は、どのようになっているのか。
- 昨年の共同研究者の数は国立大学が約5,000人、全体では約1万人で、課題数は約3,000件程度と、機構発足時からかなり増加している。
- 共同研究については、分野の壁を取り払い、共同研究の範囲を広げている。
- 海外からの研究者を招へいする際に、賃金体系が合わず、招へいできないことがあるが、機構ではどのように対応しているのか。
- 年俸制を導入した際に、機構長より多い給与を支給できるようにしている。
- 運営費交付金が減らされていることが、研究の活性低下の原因と考える。組織を増やしていくことが推奨されているが、文科省に対して、組織を増やさなくても、運営費交付金が減らないように訴えていくべきではないか。
- アストロバイオロジーなどキャッチフレーズが魅力的であればあるほど学生が興味を持つので、学生が魅力的分野に進めるよう考慮していただきたい。
- 若手研究者の表彰などの際に高校生を招待するが、非常に熱心であり、このような人材をどのように取り込むかが重要であると考えている。研究に魅力が無いのではなく、研究者が職業として成り立たないと思われているので、その点について改善が必要だと感じている。

3) 国立天文台の組織改編について

林委員から、資料3に基づき、国立天文台の組織改編について説明があり、審

議の結果、案（資料3）のとおり了承された。

（主な意見等は以下のとおり）

- SOLAR-Cは、ひのどと比較してどういったことに期待できるのか。
- ひのどでは太陽の黒点を詳しく見ることができるが、SOLAR-Cはそれより上層のかなり高温になる部分を観測するものである。

4) 分子科学研究所の組織改編について

川合委員から、資料4に基づき、分子科学研究所の組織改編について説明があり、審議の結果、案（資料4）のとおり了承された。

5) 組織運営通則の一部改正について

事務局から、資料5-1及び資料5-2に基づき、組織運営通則の一部改正について説明があり、審議の結果、案（資料5-1及び資料5-2）のとおり了承された。

6) 会計規程及び会計実施規則の一部改正について

事務局から、資料6-1から資料6-3に基づき、会計規程及び会計実施規則の一部改正について説明があり、審議の結果、案（資料6-1から資料6-3）のとおり了承された。

7) 平成29年度資金運用について

事務局から、資料7-1及び資料7-2に基づき、平成29年度資金運用について説明があり、審議の結果、案（資料7-1及び資料7-2）のとおり了承された。

8) 機構長の業務執行の確認について

中村委員から、資料8に基づき、機構長の業務執行の確認について報告があった。

9) 第22回自然科学研究機構シンポジウムについて

山本委員から、資料9に基づき、第22回自然科学研究機構シンポジウムについて報告があった。

10) 第23回自然科学研究機構シンポジウムについて

林委員から、資料10に基づき、第23回自然科学研究機構シンポジウムにつ

いて報告があった。

(主な意見等は以下のとおり)

- 東京で開催する際も、学生招待枠を設けたほうが良いのではないかと。
- 東京で開催する際の参加者は高齢者が多いので、今後、若い人に興味を持ってもらうことも含めて開催方法を検討したい。
- 若い方の参加者を増やすためには、土日や祝日が良いのか、それとも平日が良いのか。
- 一般の人の場合、夜に交通の便が良いところで開催すれば増え、学生の場合は土日開催が良いのではないかと。大学生の招待枠があってもよいと考える。
- 夏休みは平日でも学生は集まる。また、広報についてはチラシなどを科学館に送っていただければ対応できる。

1 1) I-URICフロンティアコロキウム2016について

金子理事から、資料11-1及び資料11-2に基づき、I-URICフロンティアコロキウム2016について報告があった。

1 2) 機構長プレス懇談会(第10回)について

小森議長から、資料12に基づき、機構長プレス懇談会(第10回)について報告があった。

1 3) 平成29年度の会議開催日程について

小森議長から、資料13に基づき、平成29年度の会議開催日程について報告があった。

1 4) 機構の最近の研究について

本機構の最近の研究成果について、核融合科学研究所の秋山毅志 准教授から「高調波干渉計」の開発とその波及－核融合科学研究所が作るプラズマ電子密度計測のトレンド－と題して発表が行われ、意見交換があった。

以上